

# 山菜山行in真奈川

大竹 尚子

■山行年月日:2020年

5月16日～17日

■メンバー:

先発 石川貴大、斎藤憲一、大竹幹衛、  
保科勝人、大竹尚子、

後発 榮 利文、窪田道男  
小沼充範(日帰り)

コロナを心配して開催が危ぶまれたが、何とか集まることができた。真奈川入口の駐車場で荷物を振り分け、まずはこの時期のあたりの景色をゆっくり眺める。例年になく残雪は少ないが、新緑が目にも染みるように美しい。隣に停めてある軽トラックには地ダケやワラビが積んであり、持ち主はまた近くに出かけているようだ。この駐車場は、本当は「あがりこの森」のためにあるらしい。真奈川に架かる橋は古い橋の上に補強されて高くなっていた。

一泊なのに結構重いザックを背負い(テント2張りは若手?の石川君と憲ちゃんが背負ってくれた)、目ではムラ



真奈川の流れ

サキヤシオツツジやチゴユリ、新緑を愛でながらも、手はウド、アケビの新芽、コシアブラ、コゴミ、アブラコゴミ、ワラビ、タラの芽、カタクリの葉、地ダケに伸びている。コシアブラはすでに開いていて遅かった。いつもは途中の杉林の中に雪が残っていて、ちょうどいいのが取れるのだが・・・。

たびたび道を外れて寄り道して山菜を探していると、途中で小沼さんが追いついて来た。今日は日帰りだそうで残念。先行した保科さんがクマを見かけたらしく、休んでいた。大声を出しながら進んでいくが、岩に足場が刻んである場所や、横切っている沢が深くトラロープで上り下りする場所がある。「こんなだったかなあ?」暗くなったらちょっと危険だ。

宿場沢が会うところはコゴミの畑。またワラビ、アブラコゴミなども多い。結構ゆっくり来たのでここでお昼になる。目指すテント場は水上沢と笠の沢の出合(鉦山跡)なのだが、関東の人たちがとても良い、と言っている「象さんの幕場」に泊まってみよう、ということになる。すると、そこは沢を渡ったすぐの所であった。なるほどブナが根元からカーブし、立ち上がっている様はまさに「象の鼻」である。よく見るとあたりにはそのようなブナが何本か見られた。

流れのすぐそばにタープを張り、一段上がった道ぞいにテントを張る。本当に Good Place である。帰る小沼さんに、駐車場までの間に、もし榮さんたちに会わなかったら「暗いと危ないからと電話して」とお願いした。



#### 8種類くらいあります

まず、それぞれが採って来た山菜を出して、種類ごとに分別する。それから幹



#### 「楽しそうですね。」

衛さんや憲ちゃん、石川君は、イワナなどの食糧調達に出かけ、私と保科さんは残って天ぷら、煮物などの下準備をすることにした。

しばらくすると、雨が降って来た。でも、今回はタープがあるから安心。保科さんはヨモギ団子づくりに余念がない。石器時代のように茹でた

ヨモギを石ですりつぶしていた。これはあとでみたらし団子になって登場しました。甘さとしょっぱさが絶妙でした。

4時ごろ下流を見ると道男さんが竿を出して釣りをしているのが見えた。



#### 象さんが見ている

榮さんもやって来て「小沼さんと会ったか？」と聞くと「会わない」という。後から小沼さんに聞くと、「ずっと道を歩いて行った」という。山は不思議なことが起きるものである。

やがてみんな集まり、焚火が燃え上がった。タープの下で石川君がどんどん天ぷらを揚げてくれる。揚げた先からみんなの胃袋に収まっていく。ウルイのお浸しも最高。いい夜でした。

翌日は雨の中、新緑の臭いを感じながら駐車場に戻りました。



#### ブルーシートで雨でも安心